



## マルチモーダル図書 『ホシオくん天文台へゆく』

高橋 淳・坂井 治・嶺重 慎 著

活字版 読書工房 58頁 900円+税  
 点字版 社会福祉法人桜雲会 49頁 3,000円  
 音声版 社会福祉法人桜雲会 20分 1,000円+税

読み物  
 お薦め度  
 4  
 ☆☆☆☆★

目の不自由な子どもたちに宇宙の不思議やおもしろさを伝えようと点字や音声でも楽しめるバリアフリー絵本『ホシオくん天文台へゆく』が出版された。活字や音声、点字など複数の媒体方法での出版をマルチモーダル図書と呼ぶ。活字版は通常の絵本と全く同じ形態でネット通販などでも入手可能だ。社会福祉法人桜雲会を通じて活字版と同じ内容を、音声版ではCD-ROMなど音声メディアで、点字版は49ページの点字シートとして購入できる。

著者らは2007年から「誰でも楽しめる」をキーワードにバリアフリー天文教材の開発に取り組んでいるようで、すでに大学生向けの教科書(嶺重 慎・高橋 淳 著『宇宙と私たち—天文学入門』, 筑波技術大学, 2009)と中・高校生向けの教材(嶺重 慎・高橋 淳 著『宇宙と私たち—天文学入門ジュニア編』, 読書工房・桜雲会, 2011)を刊行しており、今回、この小学生向け絵本『ホシオくん天文台へゆく』でも障がい者への心配りが詰まった心温まる絵本となっている。

健常者の中には、視覚障がい者全員が点字を解読できると誤解されている方も多いことだろう。点字を読める人は日本では1割程度とのことで、音声による補助は情報伝達のうえでとても重要

だ。しかし、ストーリーは耳からある程度理解できたとしても、視覚障がいのある人が、月や太陽、個々の惑星の特徴、さらには恒星や星雲・星団、銀河系や宇宙の構造をイメージすることは容易ではないと思われる。点字版では、上記の天体たちの点字イラストを触ることで、その特徴をつかむと同時に、ストーリーにおいてもそれぞれの紹介天体の特徴を登場人物のホシオくんがずばり一言で平易に説明している。例えば、ホシオくんは太陽系を見て「大きな家族みたい」、星雲・星団を見て「宝石ばこみたい」とそのイメージの共有に努めている。このへんが、単に健常者が読む本をマルチモーダル化したのとは全く違う満足度を読者に与えてくれることだろう。音声版ではNHKの福祉番組に長く携わっている高山久美子アナウンサーが語りを担当していて、目を閉じていてもじつに心地よく、絵本の世界を楽しむことができる。本書の製作に携わった方々のご尽力に感謝するとともに、公開天文台や科学館にも置いていただいて、国内各地で利用されることと、制作者には外国語版への翻訳作業をぜひお願いしたい。

縣 秀彦(国立天文台天文情報センター)